

第4回幼保小連携カリキュラム開発委員会の概要

- 1 日 時 平成25年11月18日(月)
午後2時から4時30分
- 2 会 場 中部総合事務所 B棟入札室他
- 3 参加者 委員12名(欠席:岩田委員・福田委員)

4 協議の概要

幼保小連携カリキュラムの基本的な考え方について

- ・「幼保小連携カリキュラム」は、「遊びきる子ども」をめざす取組の一つである。
- ・幼児教育・保育の充実とともに、鳥取県幼児教育調査から明らかになった「小1プロブレム」の解消をめざす。
- ・各園や地域の実情に合わせて工夫して活用することが大切である。

《主な意見》

- ・この「幼保小連携カリキュラム」を活用していくことが重要と考える。開発して終わるのではなく、今後の普及や研修が必要と考える。各園に配布した後、「活用度」を把握していくことも必要なのではないか。
 - 県としても、今後の取組が重要と考えている。
 - 各種研修会での「幼保小連携カリキュラム」の説明
 - 「鳥取県幼児教育振興プログラム(改訂版)」とともに、「幼保小連携カリキュラム」をテーマにした研修会の実施
 - 活動事例(各園での実践事例)の収集と普及

5 講 義 『幼保小連携カリキュラム』の役割 ～遊びと学びをつなぐ～

鳥取大学地域学部 教授 塩野谷 斉 氏

- 「遊び」そのものが「学び」である。
- 子どもの発達は、環境との相互作用の中で実現する。よりよい環境とのかかわりは、主体的な遊びの中で行われる。
- 遊びそのものが大切である。「遊びたい」「遊びだす」「遊びこむ」「遊びきる」は学びを深める過程。これが、小学校以降の学びのベースとなる。「遊び」によって、二つの学び(遊びと小学校以降の学び)がつながる。
- 小学校は意識して学ぶ時期である。科学的な認識には、日常の経験(子どもの場合、多くは遊び)が必要となる。
- 「幼保小連携カリキュラム」の役割は、幼保小の学びの方法の違いを可視化し、具体的な実践のイメージの一端を伝えること。

6 年齢部会の内容

(1) 担当年齢のカリキュラムの確認

(2) 活動事例の検討

* 「視点に沿った内容となっているか」「保育者の援助には、『意図』があるか」